



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

公益財団法人 友愛

〒112-0002

東京都文京区小石川

1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-Mail:you-i@yuai-love.com

http://yuai-love.com

編集人：羽中田元美

隔月1回 10日発行

会費(4月～3月)

個人／3,000円以上

法人／10,000円以上

## 第44回通常理事会開催

# 事業報告も多岐にわたり充実

## OEJAB派遣員8名を承認

2025年度事業が順調に進むなか、第44回理事会が開催され、それぞれの担当理事から事業の進捗状況が報告された。中でも先頃実施されたOEJAB派遣員に関する選考委員会の答申については、熱心な協議が行われ、今年度の派遣員を8名とすることが承認され、友愛ユニオンにかけける期待が表れる結果となった。

2025年10月31日(金) 18時より友愛サロンに於いて第44回通常理事会が開催され、各担当理事により順調に進んでいる事業報告の他、OEJAB派遣員の増員等が協議・承認された。始めに鳩山由紀夫理事長が次の通り挨拶を行った。

### 1 報告事項

議長からの指名を受け、羽中田事務局長が、庶務・経理関連の報告を行った。

### 理事長挨拶

皆様には、日頃から財団の運営にご協力を賜り、御礼申し上げます。新しい政権が発足しました。友愛の目線から、今後を見守りたいと思います。

世界で起きている事象も、友愛理念から考えると、軍事力では決して平和を達成できるとは思いません。

ご参集の皆様も、財団に集う若者友愛ユニオンのメンバーにも、それぞれの「友愛」に思いを寄せていただき、今後私たちが進んで参りたいと考えています。ご参集いただきましたこ

とに感謝申し上げ、早速議題に移りたいと思います。

議長からの指名を受け、羽中田事務局長が、庶務・経理関連の報告を行った。

計諸表確認は、問題点が無く、順調に会計処理が行われているとの指導を得た。

②鳩山太郎理事の辞任に伴う変更登記は、2025年10月10日に完了した。

③令和7年度事業計画及び事業予算は、2025年10月10日公益認定等委員会より承認の連絡受領した。

④本年度事業計画・予算書(本年3月末に提出の令和7年度事業計画・予算書等)

報告に先立ってOEJAB派遣事業に関して、10月25日に行われた第二次選考

### 受入事業関連

＊受入人数…2026年度12名(エヤップスタッフ含む)の学生を受け入れる

＊日程…8月22日(土)から9月3日(木)13日間

＊内容…平和記念公園・資料館見学、松井広島市長との面談、国会議事堂見学

＊アテンド…友愛ユニオンメンバーに依頼

友愛小論文コンテスト事業／攪上哲夫理事

2025年度の延世大学校における小論文コンテストについては、11月13日(木)延世大学校にて表彰式賞状・賞金・記念品授与を実施する準備が進められている事が報告された。

(受賞者は、第43回理事会で承認済・三面参照) 中央民族大学での小論文コンテスト実施に関して、中国の国内事情により延期となったが、11月22日から25日に「中日青年文化交流」及び「友愛小論文コンテスト」として実施予定であることが伝えられた。

OEJAB派遣・受入事業／西川伸起理事

2025年10月25日(土)第二次選考面接実施対象学生14名/内女子学生8名 男子学生6名

＊対面面接員／谷藤選考委員・戸澤選考委員・西川選考委員の内2名

＊他の選考委員は、We bにて参加

＊終了後選考委員会開催 9時から18時30分の長時間に亘り、選考委員各位が真摯に選考に参加してくださった旨が述べられた。

＊リーフレット修正後、

攪上哲夫理事・芳賀大輔理事・井田安信理事・南埜幸信理事・西川伸起理事・小林正枝理事・鳩山紀一郎理事・後藤大智理事

金沢俊弘監事・海方 亨監事 (順不同)

### 2 協議事項

第一号議案 2025年度OEJAB派遣事業に対する選考委員会の答申

全会一致で承認(前述)

第二号議案 友愛小論文コンテスト事業実施要項及びミヤンマー農業指導者育成事業の実施要項改訂については、友愛小論文コンテストの実施要項のみが承認された。ミヤンマー農業指導者育成事業要項の改訂については、金沢監事より具体的な支援の項目を省略せず、適正な判断ができるような内容にするべきとの意見が出され、修正のうえ次回理事会の協議事項とすることになった。

その他として、来る12月13日(土)に、派遣員の勉強会及び友愛ユニオン勉強会・懇親会が開催される事が告げられ、理事会を終了した。



鳩山由紀夫理事長



二人の監事も熱心に協議を



資料に基づき丁寧な報告が

## 友愛時評

衆院議員定数の1割削減が臨時国会の焦点となっている。連立合意の条件として日本維新の会が「一丁目一番地」に挙げたものだが、ゾンビ議員や居眠り議員など、いなくてもよさそうなポンコツ政治家が目立つゆえ大衆受けする政策なのかもしれない。▼だが、実際に定数削減した場合、比例区を削減すれば少数政党が淘汰され、小選挙区に手をつければ地方代表が減る。大阪を基盤とする地域政党である維新にとってはどちらでもむしろ都合で「身を切る改革」の痛みは他の政党がかかる可能性が高い。▼維新が推進した高校無償化にも強烈な違和感を覚えたものである。既に「改革」によって公教育の崩壊が始まったとも言われる大阪では、私立高校こそ大切にすべきものと認識しているのかもしれない。だが、地方では公立トップ校を中心とする高校教育のあり方が維持されている。高校無償化は、都市部の私学助成を、地方の税収からも負担させることとなる。▼当初の懸念を覆して「成功」と評価されている大阪・関西万博にしても、一六〇〇億円以上の国費が投入された。一般来場者は二五五〇万人を超えたが、外国人やリピーターを除けば国民の六人に一人が見たかどうか、それも近畿地方に偏重している。▼「大阪ファースト」の政策をゴリゴリ進める地域政党という観点からは、なかなか見事である。目元涼やかな吉村知事が説く大阪モデルに魅力を感じ有権者も多いかもしれない。だが、これまでの政策を見る限り、自民・維新の連立政権では、地方の衰退は加速化するばかりに思える。(ヒゲ)



# 新理事に聞く

2025年度から新たに二人の理事が就任された。  
お二人の語る意気込みをご紹介します。

理事就任にあたり

父の教え「最善を尽くす」

理事 小林 正枝

理事就任についての打診は、突然一本の電話から始まった。父の急逝から、一か月もたたない時に、羽中田事務局長より急ぎで会いたいと、詳細については会った時に話しましょうとのことだった。私から上京すると申し上げたところ、彼女からはこちらからお願いたいことがあるので、わざわざ静岡まで足を運んでくださるとのこと、いくら鈍感な私でも何かただならぬ予感がした。

仕事上の関係もあり、これまで友愛の機関紙を拝読する機会は何度もあった。若い学生たちが友愛の理念に賛同し、自ら行動する姿に、この国の未来はまだまだ明るいと感じたし、真剣なまなざしで議論する理事会の様子を撮った写真

からも熱いものを感じていた。しかし同時に、私のような何の実績もない者が他の理事の方々と肩を並べて議論するなど、できるはずがないとも思っていた。わざわざ静岡までお越しいただいた事務局長に、即座にお断りするのめ気が引けて、返事まで少し時間をいただきながら、辞退の理由を自分なりにあれこれと考えていた。



けれども、父のことを思い返すうちに、少しずつ心の中で変化が生まれていった。私の父は40年以上、静岡県警に奉職した。常に

就任した。

理事長をはじめ、先輩の理事の方々のような十分な活躍はまだできないものの、友愛の理念と歴史を学びながら、より一層の理解を深めるとともに、その精神を少しでも自分の中に根付かせていきたいと思う。

団体の創立から70年以上

人々の暮らしが、安心と安全であるために最善を尽くした。自らに与えられた役割を、感謝と責任をもって全うする人だった。

そんな父の背中を思い出し

しながら、私もまた与えられたこの機会に、逃げずに向き合うべきではないかと思うようになった。そして私は、理事就任の打診をお受けすることを決意した。

こうして2025年6

月、第9回評議委員会を選任をもって、正式に理事に

理事就任にあたって

「多様な国と共に学び合う」友愛の実践へ

理事 鳩山紀一郎

このたび、理事を拝命いたしました。長く続く本財団の歴史と理念に想いを馳せながら、その精神を現代にどう息づかせていくかを、責任の重さとともに感じています。

「友愛」とは、立場や国籍の違いを超えて、人が互



いに尊重し合い、共に生きるという普遍的な理念です。社会が不安定化し、分断が深まるいまだからこそ、人と人との間に信頼を築き、共感の輪を広げていくことが必要であり、それが友愛の原点だと思いま

す。

私は国会議員となる以前、大学で教員を務めており、その際に学生の海外派遣や受入事業に携わってきました。

異なる文化や価値観に触れる経験は、若者にとって自分の考えを深める貴重な機会です。現地での学びや

交流を通じて、相手を理解し、共に課題を解決していくとする姿勢が育まれます。そうした体験の積み重ねこそ、友愛の理念を実践的に学ぶ場であると実感しました。

その意味で、本財団が展開してきた国際交流や友好事業の意義は、今後ますます大きくなっていくでしょう。

ただし、友愛の活動が特定の国や地域に偏っていないと見られることがあることは注意が必要です。友愛の精神は本来、どの国にも開かれたものであり、より多様な国々との交流を広げていくことが求められています。

たとえば、ミャンマーなどの国々からの農業研修生の受入れ事業のように、地域社会に根ざした形での国際協力を重ねていくことが、友愛の理念をより実質的に広める道だと思えます。

経済や技術がどれほど発展しても、社会を支えるのは最終的には「人と人との信頼」です。若者が異なる文化や社会の中で共に学び、助け合うことで、その信頼の種が育つていきます。

理事として、そして教育現場と政治の両方を経験している者として、友愛の理念を次の世代に伝え、多様な国々との交流を通じて、より寛容で持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

どうぞ皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

友愛小論文コンテスト・韓国／延世大学校

友愛賞受賞作品全文紹介

私にとって友愛とは

延世大学校 イ・スジン

問題を共有し、解決の糸口をつくる鹿児島は、私にとって特別な記憶のある場所だ。中学生の頃、1か月間の交換留学で滞在したその町で、私は日本という国を教科書ではなく、人との出会いを通じて初めて知った。

あの学校の生徒たちは落ち着いていて親切で、お弁当のおかずを分けてくれたり、保健室まで一緒に歩いてくれたりした。それから10年が経ち、当時感じた「小さな親切」が今回の交流を通じて再び思い出された。大学生となって再び日本の友人たちと向き合ったとき、あの温かさが偶然ではなかったことに気づいた。

友愛財団との交流プログラムでは、「少子化」をテーマに討論した。驚いたのは、制度の違いを超えて、両国が非常によく似た悩みを抱えていたことだった。結婚を遅らせる理由、出産への負担、キャリア中断の不安、そして何より「未来が不確かである」という感覚。それは単なる人口問題ではなく、私たちが直面する不安定さそのものの反映だった。異なる国に住んでいても、同じ不安を感じているという事実が、私たちをすぐにつながった。国籍ではなく「経験」が友愛を生むのだと、私は実感した。経済、労働、家族、コミュニティ。私たちが語り合ってきたすべてのテーマは、最終的に「持続可能か？」という問いに集約された。

こうした共通の不安を分かち合う中で、私は、友愛とは単なる「良い感情」ではなく、不確実な時代を共に生きるための倫理的な態度なのだと思ふ。私の経験があなたの語る現実と重なるとき、そこに連帯が生まれ、その連帯が解決への出発点となり得る。

私は友愛を「共通の危機の前で互いを仲間として認め合う感情」と定義した。問題をつくる鹿児島は、私にとって特別な記憶のある場所だ。中学生の頃、1か月間の交換留学で滞在したその町で、私は日本という国を教科書ではなく、人との出会いを通じて初めて知った。



最優秀「友愛賞」の栄に輝いたのはイ・スジンさん(写真中央)。賞状と賞金を手に、笑顔で

い。今回の交流は、まさにそのような友愛の実験場だった。私たちは解決策を急ぐよりも、まず相手の状況を理解しようと努めた。それだけで、会話には真心が宿った。それが政策にはできない外交であり、市民による公共外交だと私は信じている。

私はこの経験をこれからもう忘れないだろう。10年前、鹿児島で感じた情緒が、時間と空間を超えてつながることを改めて確認した。そして、そのつながりを可能にする言葉こそ、「友愛」だった。互いを理解しようとする意志が続く限り、日韓両国はきっとより良い関係へ進むことができる。不確実な時代において、私たちが最も信頼すべき価値は「人と人との友愛」だと私は信じている。友愛が強まるほど、市民社会は成熟し、その上で真の外交が可能となる。国家はときに沈黙し、外を向かないこともあるが、市民間の友愛は続いている。そしてその友愛が外交の基盤となるとき、両国は本当の意味でつながるのだ。

未来を共に生きる世代として、私たちは問題を共に解決できる関係を築いていかなければならない。私は、それを可能にする言葉こそ、「友愛」だと信じている。



# 「友愛小論文コンテスト」表彰式実施 韓国延世大学校にて賞状・賞金・記念品授与

応募19作品から厳正審査で6名を選考

11月13日(木) 韓国ソウルにある延世大学校に於いて、「友愛小論文コンテスト」の表彰式(授賞式)が行われ受賞者6名に賞状、賞金が授与された。

これは、去る5月17日、同大学で実施された小論文コンテスト「友愛」595号既報)に応募した19作品から選ばれた6名(友愛賞1名・2位1名・3位2名・入選2名)を表彰するために実施されたものである。

11月13日、広いキャンパ



参加者全員で記念撮影  
写真左から攪上哲夫理事/キム・ハン先生/グラナダル・珠絵ルさん(3位入賞)/パク・ソンウさん(入選)/キム・ギョハンさん(入選)/イ・スジンさん(友愛賞)/チョハンさん(3位入賞)/チョン・ユンホさん(2位入賞)/カン・ジョミン先生(学生センター長)/羽中田元美事務局長/イ・チョルウ先生  
全員時間を遣り繰りして参集してくれた。口々に楽しかった、良い経験をしたと感想を述べた

午前11時から始まった授賞式では、受賞者毎に攪上理事から作品の講評(全文下段)が発表され、賞状・賞金が授与された。天気も良いので外で記念撮影をということになり、歴史的建造物である校舎を背に、全員がカメラに収まった。

その後、日溜まりの中陣を組み、各受賞者が今回の受賞及び交流会参加について感想を述べた。

「日本のアニメには興味があり、その部分で日本を見ていたが、こうした活動をしている団体があることを知って勉強になった」

「正直、今回の交流会参加で、初めて日本について真面目に取り組んでみた。色々な事を知ることができて、貴重な経験だった」

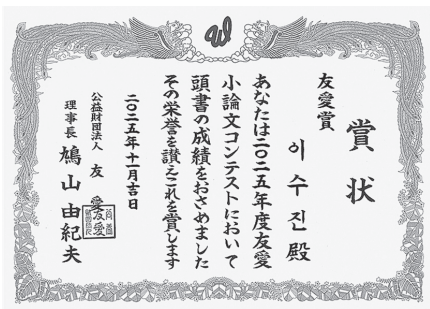
交流会で意見交換した日本の学生達(友愛ユニオンメンバー)との交流は、とても楽しかった。今でも連絡をとりあっていて、友達が増えた」など、様々な意見が聞かれた。学生センター長のカン・ジョミン先生からは、「この様な交流は、学生達に良い経験であり大きな効果をもたらします。これからも続けていただけるようお願いしたい」との希望と意見が述べられた。

午後には、広い構内をご案内していただき、先生方との再会を約して延世大学校を後にした。

(羽中田記)



友愛賞受賞のイ・スジンさん。賞状・賞金を授与(作品は前頁掲載)



友愛賞(第1位)の賞状



受賞者6名が全員出席。攪上理事から賞状を受け取った

友愛小論文コンテスト講評  
理事 攪上哲夫

最優秀の「友愛賞」を受賞されたイ・スジンさんは、友愛を「共通の危機の前で互いを仲間として認め合う感情」と定義し、国際情勢が不安定な現代においてこそ信頼すべき価値は「人と人との友愛」であると結びました。友愛理念の根幹である「相互信頼」は、まさに普遍的な価値であると感じさせる内容でした。

第二位を受賞されたチョン・ユンホさんは、韓国人の父と中国人の母のもとに歴史的建造物の前で、延世大学校は美しい建造物が数多くある



今回の交流は、一つの歴史を作りましたと挨拶。攪上哲夫理事



生まれ、二つの文化の間で葛藤を経験したこと、友愛とは「他者を理解しようとする意思」であり、「相互理解」の重要性を訴えた作品でした。

第三位のチョハンさんは、友愛を「異なる立場を持つ他者と共に、より良い社会・未来を築こうとするもの」と捉え、違いを否定せず、受け入れ、学ぼうとする姿勢の大切さを説きました。

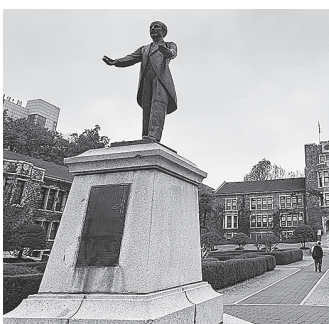
同じく第三位のグラナダル・珠絵ルさんは、日本で生まれ育ち、中学時代から韓国へ留学された経験、また友



愛ユニオンの若者たちとのディスカッションを通じて、友愛とは「文化や価値観の違いを『壁』ではなく『窓』として捉える力」であると論じられました。

また、入選されたパク・ソンウさん、キム・ギョハンさんの作品も、いずれも当財団の友愛理念を考えるうえで大変示唆に富む内容であり、心から敬意を表します。

本コンテストを通して、皆さん一人ひとりが「友愛」という言葉に込められた意味を自らの経験や思索をもとに深く掘り下げてくださ



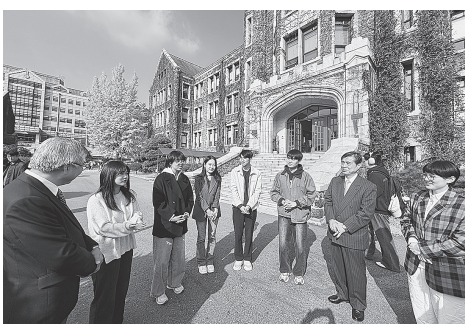
ったことを、私たちは大変うれしく思います。今日のこの出会いが、国や文化の違いを越えて、互いを理解し支え合う関係を築く第一歩となることを願ってやみません。ご参加の学生の皆様、この機会を実現してくださった延世大学校の皆様、深く感謝申し上げます。

「私にとって友愛とは」の小論文は、全作品友愛HPからご覧いただけます。ご希望の方には、小冊子をお送りします。事務局までお申込ください。  
<https://yuai-love.com>

構内には立派な教会がある。ステンドグラスとパイプオルガンが調和し、荘厳な空間を作っている



日溜まりの中で、今回の感想を発表してくれた。話は尽きなかった





## ご紹介アーカイブ ～70周年記念DVDのなかから～



今回は、「鳩山一郎・薫ご夫妻銅像」についてご紹介いたします。

現在この銅像は、鳩山一郎先生とご縁の深い、北海道夕張郡栗山町にある「友愛ファームゲストハウス」（合同会社友愛企画運営）にあります。写真下。↓

近辺の有志が鳩山一郎先生の没後、その栄誉を称えるため、護国寺岡本数海貫主のご協力を得て護国寺境内に建立したものです。

永い間音羽の町の方々に慕われ、皆さんの協力によって大切に保存されてきました。

その後、一郎先生の成し遂げた「日ソ共同宣言議定書調印」50周年を記念して、一郎先生の思い出の銅像に銘板はありませんが、今でも皆さまにお伝えしたい内容です。で、ここに改めて掲載させていただきます。



### 鳩山一郎・薫ご夫妻銅像護国寺より遷座

地、軽井沢（当時の友愛山荘）に遷座されました。写真上。↓

機関紙『友愛』483号では、その遷座式の様子を詳しくお伝えしています。そしてもう一つ大事な事をお伝えしています。それは、銅像の銘板に記された記述です。一郎先生の生涯に亘る情報・友愛との関係・モスクワ訪問のことなど、全てが解る文章で記されています。当時の銅像建立の発起人の方々、皆さんの思いが伝わってきます。

## 創立70周年記念DVD お問合せは事務局まで

参考：友愛ファームゲストハウス／ホームページ <https://yuai-farm.com> e-mail: [info@yuai-farm.com](mailto:info@yuai-farm.com)

鳩山一郎先生明治十六年東京都に生る明治四十年東京帝国大学英法科を卒し直ちに弁護士となり先代和夫先生の法律事務所に入る明治四十五年二十九歳の時父君の逝去により補欠選挙に出馬して東京市会議員に当選以来大正末期まで十五年間を地方自治に尽くしその間副議長となる同時に大正四年衆議院議員に初当選爾来国会議員在職三十七年当選十五回を数えたこの間内閣総理大臣となり三次にわたり内閣を組織して国勢を担当した先生の政治生活はそのまま我が国の政党史であり政治史であるが先生は戦前戦後を通じて一貫して民主主義と自由主義をもって国勢の大本とする信念のもとに議会政治の確立擁護のため奮闘した殊に終戦後いち早く政党政治再建に奔走し昭和二十年十一月同志とともに日本自由党を結成その初代総裁となる昭和二十一年四月の総選挙では一躍第一党となりまさに組閣の大命を受けたとする寸前連合軍の公職追放指令を受けた爾来五年余を晴耕雨読に送ったが特にクーデロンホフカレルギーの著書に共鳴自ら「自由と人生」と題して訳出したまた青年有志に友愛精神を説き同志会の創設に力をそいだ昭和二十六年六月病に倒れ同年八月病床中に追放解除さる翌二十七年再び政党に復帰した昭和二十九年十一月民主党が誕生その総裁となる同年十二月吉田内閣総辞職のあとを受け第一次鳩山内閣を組織総裁選挙の結果民主党は第一党となり第二次鳩山内閣を樹立した三十年十一月自由民主両党の合同を達成第三次鳩山内閣を組織し翌三十一年四月初代自由民主党総裁に選ばれた同年十月ソビエト社会主義共和国連邦との国交正常化を目的とする交渉のための全権として病身をおしてモスクワに赴き復興の大業を遂げた同年十二月十八日わが国の国連加盟が承認されこれを見届けて同月二十三日桂冠した内には保守の大合同を完成して議会政治の基礎を固め外には国連加盟成就し我が国の国際地歩を高め政治家としての使命を果たして引退する先生の心境は自ら明鏡止水いわれた自ら友愛精神を説き悠々自適の生活はついに三十四年三月七日に終止符を打った享年七十六

正二位大勲位菊花大綬章を授かる  
昭和三十九年十月吉日  
秋本平八郎撰

## 2025年度 年会費納入のお願い

今年も残すところあと1ヶ月となりました。いつも公益財団法人友愛にご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

公益財団法人友愛の活動は、皆さまの会費で支えられています。今年度(2025年度)の年会費は、12月末日までにお送りいただきますと、3月の確定申告時の「寄付控除」の対象となります。

(2026年1月に領収書をお送りします。ふるさと納税や他の寄付と合算されます)

今月号に同封の振込用紙をご利用いただき、2025年度会費(寄付金扱い)の納入をお願いします。

郵便法のきまりから、お願いのお手紙を同封することができません。悪しからずご了承ください。

＊機関紙『友愛』の送付先と、住民票に記載の住所が異なる場合は、その旨お知らせください。

＊寄付金控除のための領収書には、住民票に記載の住所が必要です。

＊その他、お問い合わせはお気軽に事務局までどうぞ。

年会費：1口／3,000円(何口でも可)

法人会員：1口／10,000円(何口でも可)

### 創立70周年 記念DVDについて

前号でご紹介した「創立70周年記念DVD」は、在庫があります。

ご希望の方は事務局までお申込ください。

送料・会員／千円

一般／3千円

### 発行遅延のお詫び

今月号(第597号)は、掲載記事の都合で発行が遅れました。慎んでお詫び申し上げます。

なお、次号2026年1月号(598号)は、1月末のお届けとなります。ご了承賜りますようお願い申し上げます。

楽しいものです。(も)

### 友愛ホームページのご案内

公益財団法人友愛のホームページでは、機関紙「友愛」で紹介した記事の写真がカラーでご覧いただけます。また、機関紙「友愛」は創刊号から現在の号まで、全てのバックナンバーが掲載されており、印刷も可能です。是非ご利用ください。

<https://yuai-love.com>

スマートフォンはQRコードからどうぞ



◆韓国訪問の折り、帰国便が遅かったためソウル郊外の古刹「吉祥寺」を訪れました。紅葉の季節とあって、多くの参拝者(観光客)で賑わっていました。昔からお寺さんを訪れるのは好きでした。仏像を拝見するのも好きでした。日本の国宝級の仏像は、止利仏師の作と言われており、その止利仏師は渡来人とされています。どこから？という疑問から「ヒゲ」さん推薦の本を読み進むうち、朝鮮半島のお寺・仏像を見たくなったという次第。結果、もっと知りたい事が増え、もっと勉強しなくてはと感じました。好きなことを掘り進めていくのは、本当に楽しいものです。(も)